

◆teku-teku2015★鳥取中心街+因州鹿野のまちづくり（活動記録+評価結果）◆

企 画■鳥取流リノベーションを歩く ～鳥取中心街+因州鹿野のまちづくり～

日 時■第1日／鳥取中心街：2015年11月7日（土）11:45～17:00

第2日／因州鹿野：2015年11月8日（日）10:00～14:00

コース■第1日／鳥取中心街：鳥取駅前＜集合＞～鳥取駅前太平線バードハット～鳥取民藝美術館＜昼食＞～100円循環バス「くる梨」～仁風閣・鳥取城跡周辺～西町コーポラティブハウス～五臓圓ビル～川端通り商店街～若桜街道商店街～ブックカフェ・ホンバコ～民芸通り～ことめや（旧とめや旅館）～観光物産センター「まちパル鳥取」＜意見交換＞

■第2日／因州鹿野：鹿野町総合支所＜集合＞～古道鹿野往来～すもうとりづか+牛つなぎ石～鹿野ゆめ本陣（空家改修の体験工房雑貨店）～幸盛寺・御奥蔵～しかの心（かいこ小屋改装の喫茶集会施設）～鹿野城跡公園～鳥の劇場（小学校廃校を改装）～鹿野往来交流館＜昼食・意見交換＞

参加者■◎大島英司、大竹 亮、栗原 徹、藤井正男、古里 実、全国まちなか広場研究会6名、鳥取大学都市計画研究室11名（以上22名／鳥取18名+鹿野12名、敬称略、◎コーディネーター）

協力者■成清仁士氏（タウンマネージャー）+中村理人氏（鳥取市都市整備部）+長尾裕昭氏（ふるさと鹿野）

企画主旨■

鳥取中心部は1952年の大火後、全国初の防火建築帯が設置された街ですが、当時の賑わいを伝えるアーケードや民藝運動の名残りが各所に残る中、近年いくつかの拠点施設のリノベーションが実現し、また道路空間利用施設「バードハット」やまちなか100円循環バス「くる梨」などの新たな取組みも着実に進んでいます。今後それらが民間の力によって街が変わる装置として働くのか、いま岐路に立っているといえます。リノベーションにより同時多発的に変わっていくとする試みと、歩いて暮らせるまちづくりの先進的取組みがまとめて実施されている鳥取中心街を歩き、地方都市中心街の今後を考えましょう。

また、鹿野町は司馬遼太郎が「街道を往く因幡伯耆の道」で称賛したように、鹿野往来沿いの家々が陰影の美しい千本格子に海鼠壁の落ち着いた佇まいを見せています。それを守っているのが、地域の修景の努力と併せて、空き家を活用しつづける努力です。その魅力に惹かれた劇団が廃校を改装した「鳥の劇場」は、海外交流も深めながら新たな文化を創造しつつあります。地域ぐるみで歴史的な美しい街並みを守りつつ、新しい文化を受け入れ積極的に支える鹿野のまちづくりを、ぜひ現地で確かめてみてください。



鳥取駅前の道路に大屋根をかけたバードハット



鹿野往来交流館と鹿野往来のまちなみ

＜参加者の意見・評価＞

（注）評価は、A:非常に良い B:良い C:普通 D:良くない の4段階。コメントは、評価の理由、感じたこと、考えたことなど。

1◆鳥取中心街のまちについて

評価:3.46 内訳:AAAABBBBBBBBBB

評価A●鳥取駅から城址までの中心街がコンパクトで、行政機関や企業が集中し商店街が縦横にネットワークしている。商業環境は厳しいと思うが、建替えてマンション化するのではなく、リノベーションによる再活用により、新しいスタイルの小さな店舗が目につくようになった。今後が楽しみである。

評価A●鳥取市に住んでいながらも、移動は車で行うので、鳥取中心街を歩く機会はあまりなかったが、今回の企画で鳥取中心街に対するまちづくりやリノベーション活動の詳細な計画・実施について知ること、改めて生活するまちとしての魅力を認識することができた。

- 評価A●鳥取に3年間住んでいて、今回初めて鳥取中心市街地をゆっくりと歩きました。空き家を有効活用し、民間の方が新たな事業に取り組めるようなリノベーション事業をしていることを初めて知りました。市街地が賑わいを取り戻すためのリノベーション活動に市が力を入れているのを知ることができたのは良かったです。リノベーションというワードを聞けば関心をもって学んでいきたいと思いました。
- 評価A●短時間で巡ることができ、鳥取市出身でも初めて知る場所もあったので、範囲としても良かった。
- 評価B●地方都市の「まちなか」としての良いものが残っているし、それが歩ける範囲にあるのは魅力的で、これからいかにようにも変化できる伸びしろが感じられる。市民（地元の人）がそれに気づき、いかにシビックプライドを醸成するかがポイントだと感じる。
- 評価B●鳥取駅から鳥取城跡までの距離感がまち歩きにちょうど良い。街を元気にしようとする小さな仕掛けがあちこちに生まれつつあり、今後を期待させる街。
- 評価B●以前（8年ほど前）に比べ、裏地の老朽建物や近代建築等を活用したリノベ事業が散見されるようになり、若い感性の萌芽のように見えた。駅前のバードハットやコミュニティバス等を含め、魅力的な点ができて、それらが繋がる可能性を見出すことができた。
- 評価B●この一日で今まで知らなかった、今後に大きな可能性がある場所を知ることができて良かったです。
- 評価B●意外に知らないことが多かったので良かった。
- 評価B●短時間にたくさんいろいろなところを見ることができ、とても良かったです。逆に短時間にいろいろと回りすぎて疲れ果て、最後の方はとにかく付いていくのがやっとだったような記憶があります。
- 評価B●各場所はとても面白かった。特に川端通商店街のあたりが面白くちょっとゆっくり歩きたかった。
- 評価B●様々な努力が見られるが、全体的にまだ活気が足りないように感じた。
- 評価C●地方都市の例にもれず、中心市街地全体としては活気がみられないが、「ホンバコ」などの新たな動きが起こりつつあり、これから面白くなる気がする。

## 2◆鳥取中心街で特に印象的だった場所とその理由

- バードハット★（再開発ではなく）駅前の道路を有効活用して人が集まるスペースを創出した点で、少ない投資で効果的なプロジェクト。デザインはもう少し軽やかな方が良かったと思いますが。
- バードハット★天気に関係なく室外で市民が集まってイベントなどが行われる場所の存在は重要。また、政策を進めるにあたり、市民生活に密接な交通状況に対する影響などを社会実験の実施などで考慮した。
- バードハット★砂丘の砂の対策などが必要であった点。その土地ならではの観点でした。
- バードハット★写真で見るとより寂しさを感じたので、逆の意味で印象に残ってしまいました。
- バードハット★これからの使い方に期待。ただハード整備だけでは宝の持ち腐れ。あの場所を使っている市民の風景を作り出して、市民に「バードハット」の使い方を自ら発想させる仕組みが必要。
- バードハット★本が置いてあるのは驚いたし、20分間隔でバスが走っているのも知らなかった。
- くる梨バス(100円循環バス)★本数が多く、路線もわかりやすい。外来者にもっと活用されるといい。
- くる梨バス(100円循環バス)★今回、初めて利用しましたが、その本数と経路・そして時間の正確さに驚きました。まだ学生なので市内の移動は歩きでも苦ではないのですが、お年寄りや子供にとってはとてもありがたいものだと思います。ただその質の良さがあまり知られていない、利用されていないのは少し残念に感じ、これからの課題の一つでもあるのかと思いました。
- 仁風閣・鳥取城跡周辺★鳥取の街の歴史が理解できるベンチマークのような存在。
- 仁風閣・鳥取城跡周辺★歴史を感じることでできる貴重な建物で、面白かった。
- 仁風閣・鳥取城跡周辺★良き昭和時代が残っていて、知らなかったことが多かったのでとても勉強になりました。時間が止まったような感じになりました。
- 仁風閣・鳥取城跡周辺★木でつくられた柱のない螺旋階段の美しさ。映画のロケに開放したことやガーデンカフェなど、見学だけでなく活用にも積極的。
- 仁風閣・鳥取城跡周辺★文句無く素敵な空間。おしゃれな場所をさらに高級な場所にするために、高級なカフェなどを誘致し、市民にとって特別な場所にすれば人は集まる。デートなどに行きたくなるハレの場としての仕掛けが必要。
- 西町コーポラティブハウス★街なかの遊休地を活用して、定借にて街なか居住を推進する新しい試み。共有スペースを効果的に配置し、人の繋がりができるデザインも優れている。
- 西町コーポラティブハウス★街なかに戸建住宅を新規供給した貴重な事例。デザインや共用空間が優れているのはもちろん、土地活用、人口回復、そしてコミュニティ形成に寄与することが期待される。

西町コーポラティブハウス★戸建のコーポラティブは珍しいが、地方都市の再生手法として有効だと思う。

西町コーポラティブハウス★初めて知ったが、将来住んでみたいと思った。

西町コーポラティブハウス★今までにない家の配置に驚きを感じました。家はそれぞれ持っているが庭や駐車場を共有しているところなんかはなかなか見られない形態だと思います。土地所有者も有効活用できるし、各入居希望者もそれぞれの家を自分で建てることができ、コミュニティの形成を図ることもできるメリットがあるということだと聞きました。デメリットもあるかと思うのですが、今後この土地利用の仕方が普及していけば、市街地に人が定住するようになり街が賑わっていくかもしれません。

西町コーポラティブハウス★これからの住居の形として、初めて見る形だったので印象に残りました。家は別としても、庭や駐車場は共同スペースにすることで、同じ空間を過ごすいい近所関係が築きやすい環境だと思います。

五臓圓ビル★鳥取市内では数少ない歴史的建築を、うまく再生し活用している。

五臓圓ビル★町なかに昔ながらの建物があって、昔の街並みを連想できた。

五臓圓ビル★外見は変えることなく、中を改装することで有効活用されていた。

五臓圓ビル★建物そのものの面白さと、カフェが結構おしゃれだった印象があります。

川端通り商店街★智頭街道と若桜街道を結ぶ短い商店街ながら、昔からの老舗と新しいショップが程よく混ざって楽しい雰囲気になっている（もう少しゆっくり覗きたかった）。

若桜街道の防火建築帯★防火建築帯の建物群は、よく見るとデザインされており、なかなか味がある。

若桜街道の防火建築帯★建て替えが難しいのか、リノベーションによってお洒落な店舗が増えつつある。3階程度の多彩なファサードが連続し、ヒューマンスケールで歩いて心地よい。人通りが意外に多く驚いた。



鳥取城址に保存された木造洋館の仁風閣



まちなか居住のモデルとなる西町コーポラティブ



智頭街道に沿った洋風建築の五臓圓ビル



若桜街道にはかつての防火建築帯が連なる

ブックカフェ「ホンバコ」★古い建物の活用、デザイン、本を通じた人のつながりの創出など、少ない投資で地域づくりの基本を効果的に創出する優れた仕掛けと言える。

ブックカフェ「ホンバコ」★コンセプトが絶妙。文化＋コミュニケーション＋活動を誘発する仕掛けとなる。内部はとても居心地がよく、午後ゆっくり一人で本を読むにも、夜遅く二次会で立ち寄るにもいい。

ブックカフェ「ホンバコ」★カフェ＋本箱という組み合わせが、街のコミュニケーションツールとして、非常に面白い。



ブックカフェ「ホンバコ」★面白い試みで、個人的にもまた来たいと思った。

ブックカフェ「ホンバコ」★リノベーション事業にも興味を持つきっかけになった。

ブックカフェ「ホンバコ」★少し荒っぽいけど、親しみのもてるリノベーションの好事例。

ブックカフェ「ホンバコ」★この店はおすすめの本を用意して紹介していました。本を通して人と人がつながったりしているといえます。一人でも入りやすそうですし、二階にはセミナーを開けるような空間がありました。大学生はもちろん、若い人がちょっと入ってみたいと思えるような空間を提供していました。

ブックカフェ「ホンバコ」★空き家のリノベーション例として、こんなにも立派な空間ができるなんて思っていませんでした。知っている学生はすでに活用しているようですが、鳥取大学の学生ではまだ認知度が低いと思ったので、今後伝えて活用してもらえたらいいと思いました。

ブックカフェ「ホンバコ」★鳥取出身の若い方の自ら活動による継続的な地域づくりの拠点としてもその役割は大きいと思う。若い世帯がより中心街の中で生活や活動を行うためには、その活動などを担保できる場所（場づくりを行うためのきっかけとしての拠点）の提供は、その支援策の一つであると思う。

ブックカフェ「ホンバコ」★若い人が集まり、新しい文化が芽生える匂いがプンプンしている。視察はお断りし、地元の若者と文化人が集まり、肩書き抜きで交流ができる空間として大事に育ててください。

ブックカフェ「ホンバコ」★秘密基地のようで、もう1回行ってみたいと思った。

ことめや（旧とめや旅館）★外国の文化・芸術のアーティストの宿やコ・ワーキングスペースとして、旧旅館という施設を有効に活用されている。鳥取に観光に来る一般の外国旅行者や国内の旅行者にも昼間の使用や宿泊などを開放することで、より有効な活用が期待されるのではないかと考えた。

ことめや★この建物を再活用することで、民芸通り一帯の街並み保存に寄与している。伝統日本旅館として、玄関、広間、縁側、中庭、奥座敷と続くシークエンスがすばらしく、文化活動に刺激になるのでは。

ことめや★旧旅館は広々としている空間が多かったので、コ・ワーキングスペースには適した活用だと思いました。広い空間を集会場にするアイデアはいいと思います。また、中心街で集まる機会を設けることで集まりが終わってから周辺の飲み屋、料理屋にも足を運んでもらい諸かるのではないかと考えました。

ことめや★いい時代の日本がそこにありました。ゆっくり座って時間を過ごしてみたかったです。

ことめや★facebookでもことめやの情報はよく見かけ、実際に見ることができて良かった。

ことめや★若者の交流拠点として活用されていることが素晴らしい。



リノベーションスクール物件「ブックカフェ・ホンバコ」



旧木造旅館のコ・ワーキングスペース「ことめや」



中心街には改装による新しい店舗が目立ち始めた



初期リノベーションの旧銀行建築「元町倶楽部」

鳥取民藝美術館★駅のすぐ近くに群建築として佇み、民芸通りの景観を形作っている。レストランも秀逸。  
Cafe-nee★帰りがけの余った時間で立ち寄った、木質アパートの2階の一部をリノベしたカフェ。木質のシンプルかつ素朴な建物の良いところを活かした秀作。心地よく、雨にも関わらず若い人がゆったりとした雰囲気の中で会話を楽しんでいた。

### 3 ■鳥取中心街は今後どうなって欲しいか。そのためにはどういうまちづくりが必要か。

- 鳥取中心街を魅力的にするためには、若い人が集まる魅力的スポットを創っていくことが重要であり、それを仕掛けられる人を探し、その人をうまく活かすことが必要。
- 様々なお店がもっと増えて、街中を歩く人がもっと増えると良いと思いました。そのためには（特に若者に向けて）リノベーションによる挑戦の促進・補助と街なかのアクセシビリティ向上が必要だと思います。
- 鳥取の良さ、歴史は残しながらも、現代のニーズに合わせたまちになって欲しい。そのためには、五臓圓ビルのように、外見は保ちつつ、中には幅広い世代が楽しめる娯楽施設や商業施設などの整備が必要と思う。
- 歴史的な資源が旧市街地のそこそこにあるので、それを市民の皆さんが活かし、楽しんで欲しい。住民、市民が楽しんでいる街に観光客も魅力を感じる。内と外の相乗効果が生まれるイベントや事業が必要だと思う。
- 駅前と鳥取城の2核の間が商店街の活性化や散在するリノベプロジェクト及びコミバスで薄くでも繋がり、面としての街の広がりを感じられるようになると良いと思います（2核の距離が2kmもあるのがちょっと難点か）。リノベーションに若く優れた感性を感じたので、活動が広がることを期待したい。
- シャッター通りは見ていて悲しくなるので、わからないけど何かして欲しいです。ノーカーデイ（月に一度は公共交通を使って通勤）を取り入れたりしてみたらいいかなって思います。
- 私が初めて鳥取に来たとき、シャッターを閉められている場所がよく見受けられました。その空き家をリノベーション事業によって店や集会場に作りかえ有効活用されているということを知り、少しずつ街が生まれ変わっているなど実感しました。今後はシャッター通りみたいな殺風景で寂しい街を地元の人や鳥取をもっと良くしていきたいと思っている方に協力してもらい、少しでも中心に人が集まってもらえるような街になってほしいと思います。そしてそのためには、この先は若い人が鳥取市街地に対して愛着を持って、ここで何か新しいことをやりたいと思ってもらうことが必要ではないかなと思います。特に地元の中学、高校生が鳥取について真剣に考えてもらう機会を増やしたりだとか、例えばリノベーションのアイデアを考えてもらったりだとか。そうすることで市街地に足を運んでくれる回数ももしかすると増えるのでは思ったりします。今回の街歩きのような企画もどんどんすべきです。私もこれを機に鳥取の市街地を一人で訪れる機会が多くなりました。
- 鳥取が様々な活動をして少しずつ変化しているのを知ってもらいたいです。様々な活動できる場所や施設というハードの面は整ってきているにも関わらず、それに参加する人・企画内容といったソフトの面でまだうまく機能できていない気がしました。多くの人に知ってもらうのと同時に、それを生み出す・考える機会を提供して少しずつ自分たちの住むまちについて考えていけば、もっと鳥取市内が盛り上がっていくと思いました。また幅広い世代の人に参加してもらえれば、より新しいこと・大きな規模のものにも挑戦できると思いました。
- ビジョンを持って持続的な計画・実行を担保するまちづくりが必要だと思います。住みたくなるまち・歩きたくなるまちを目指して、まず、中心街で行っているイベントや行事などにたくさんの市民（特に子供連れの家族）が参加して中心街の魅力を感じることから、居住するまちとしての認識が生成されると思います。そのために、中心街までの移動の利便性向上を目的に、例えば、子供連れ家族がほとんど車で移動することを把握して、（臨時でもいいので）多数の無料の共用駐車場を設営することなどが、より多くの市民に中心街の魅力を感じる機会を与えたいと思います。また、市民向けの鳥取中心街の魅力発信活動として、今回のような鳥取中心街の歴史・物語についてまち歩き解説師（例えば、お年寄りの方などによる）によるまち歩きの定期的な実施などは、鳥取市の魅力を感じることに繋がると考えます。
- コンパクトな中心街に歴史文化と業務生活の諸機能が集積し、相互に触発し合い変化発展を促すような活気ある場であるべき。その方法は、大規模開発や公共事業に頼らず、身の丈に合った既存建築のリノベーションやまちなか居住の定着を図ることが現実的であり、小さいけれども面白い動きをたくさん誘発したい。
- 別件で再度まち歩きをしました。一緒に来た女性陣と「おしゃれなカフェとか面白そうな店が多いよね」という話をしていました。古い建物の面白さが印象的で、そこに小さなユニークな店が点在していて歩いていて楽しかったです。そこに若い人を引き付ける可能性を感じました。
- 鳥取は何を始めても一番目だと聞きました。起業を目指す人が集まるまちになればいいと思いました。
- 半日ほど歩いただけなのでほんの印象ですが、いい大きさの「まちなか」だと思います。砂丘には多くの観光客が来られると思いますが、そういう「砂丘」や「蟹」目当ての観光客ではなく、鳥取のまちに魅力を感じ



る「通」なりピーターを増やすことが大事です。そのためには、鳥取のまちが大好きな市民が何人いるかということが決め手だと思います。暮らしているように旅する。旅人のように暮らす。よそ者とすれば、物見遊山ではない、奥の深い楽しみをゆっくりと実現できるまちになってほしいと感じます。

#### 4◆因州鹿野のまちについて

評価:4.50 内訳:AAAAAAAAAABBB

評価A●魅力的な街並みが面的に広がっており、ハード、ソフトの両面にわたって素晴らしい街づくりが進められている。

評価A●伝統的な街並みを保存するだけでなく、既存施設の転用（鳥の劇場、しかの心など）や新しい住宅の建て方も工夫されており、単なる観光地化ではなく、本来の意味での町の再生に取り組んでいる。

評価A●街並みの統一、様々な小物（独自のプランター、サイン計画等）まで、表面的に景観だけ整えるのではなく、住んでいる人の深い理解のもとにまちづくりが進められている。

評価A●町全体（特に道）を作る際の工夫（山車のための四辻など）が計画的にされていること、その手法、住民の生活と観光地としてのあり方など、考えさせられる点が多かったです。

評価A●景観に非常にこだわっており、歩いているだけでも楽しかった。歩いて行ける距離に様々なものがあり、観光もしやすいと思った。

評価A●町の景観はもちろん、昔の街並みを保存する取り組みが地域全体で行われていることが素晴らしいと感じました。

評価A●鹿野の町の雰囲気と歴史、そして現在の活動を知れたことで地域の力を感じました。

評価A●部分的ではなく、歴史の話を交えながら、鹿野のまち全体をみることができ良かった。

評価A●鹿野町には何度か訪れたことがあったのですが、今回の街歩きでは、私が今まで鹿野町に抱いていたイメージとは少し違った鹿野町を案内していただいて、本当に良い経験になりました。

評価B●昔の街並みを残すための努力が垣間見えました。道路、屋根、自動販売機など古い町並みに合わせた景観にして風情のある街を作り出していました。

評価B●鹿野町全体がまちづくりの政策をされていて理想的だと思った。

評価B●町全体に住民の意志や昔の人の思いが反映されていて良かった。



保存・修景がなされている鹿野の町家群



伝統的な町並みに品格が漂う鹿野の中心街



旧かいこ小屋を改装して活用する「しかの心」



廃校となった小学校校舎を利用した「鳥の劇場」

## 5◆鹿野で特に印象的だった場所とその理由

鹿野の町並み全体（鹿野往来交流館含む）★景観づくりの意識が、住民や建物の所有者に浸透している。

鹿野住宅・景観全般★まち全体で鹿野の雰囲気をつくろうと協力していたのがすごく伝わってきました。

鹿野住宅・景観全般★建物保存だけでなく新しく作り加えながら街並みを整えている。道の舗装や水路も町に品格と親しみをもたらしている。歩いていると町の人たちの矜持が伝わり、心が洗われるようだ。

鹿野往来交流館・童里夢★現在の鹿野のまちの拠点になっていると感じた。

ゆめ本陣（空家活用）★鹿野は魅力的だが、飲食やお土産を買える店が少ないので、貴重な拠点となっている。

しかの心（旧かいこ小屋改装施設）★懐かしさが漂う独特の雰囲気の建物で、様々な用途に使われてきたが、今はカフェとしてコミュニティの核となっている。

しかの心★ついふらっと立ち寄りたくなるような建物。内部はあたたかい雰囲気のカフェになっている。

鳥の劇場（廃校を利用した劇団活動拠点）★改修中で劇場空間としてはよくわからなかったが、地方都市の廃校となった小学校を拠点として演劇活動をしていることは、非常にユニークな試み。

鳥の劇場★小学校を利用した劇団の設立は、空き施設と街のアピールの問題を両方達成しており良いと思った。

鳥の劇場★使われなくなった小学校施設を再利用して世界的に名の知れた劇場になっていて驚いた。

鳥の劇場★世界的に有名な劇団が鹿野の旧小学校を使って練習や会場にされているのには驚きました。鹿野にとっても誇れるものだと思います。

鳥の劇場★全国でも有名な劇団が都会でも市内でもなく、鹿野という地域で活動していることが鹿野の魅力をより一層引き立ててくれていると感じました。

鳥の劇場★小学校の中で台本を読んでいる役者さんの姿に、一時的でない根付いた取り組みを感じました。

鳥の劇場★文化の発信拠点として、自治体含め、地元根付いた活動が展開されている。

鳥の劇場★廃校を再利用して大規模なことができています。

鳥の劇場★都市計画やまちづくりの政策の中で、使われなくなった学校の利用目的を変えて使用することは知っていたが、劇場になっており、その中までじっくりと見ることができたことがよかった。

鳥の劇場★今回は工事中で整った状態の施設を見ることはできませんでしたが、それでも中を拝見して、すごく立派な環境下で演劇をされているのだと思いました。環境といっても、施設が便利であるや綺麗というのではなく、自分たちの力で作り上げたものというのが伝わってきて、他にはない独自性を強く感じました。ぜひ本番にも一度足を運びたいと思いました。

鳥の劇場★初めて知ったが、一度観に行ってみたいと思った。

鹿野城跡・城跡公園★日本を感じられる素敵な場所であり、この場所だけでもまた来たい要素であった。

幸盛寺★個人的に歴史が好きで、有名な武将のゆかりの地に来てよかったです。

幸盛寺★武将山中鹿介のお墓が鹿野に眠っているのは地元の人にとっても大切にすべきもの。歴史が好きな人は戦国時代の毛利対織田の戦いの犠牲者である鹿介のお墓を一目見ようと来られる方もいると思う。

牛つなぎ石★昔に作られたそのまま形で現在まで残っており、昔鹿野が商業で栄えていたことがわかった。

道・水路★道の整備、各家の前の灯籠（?）、まち全体の統一感、水路の花など、行政と住民が一緒にまちをつくった感じが伝わってきました。

鳥取大学のハス★季節の花を景観の一つとして、無秩序に広がらないように工夫して多くの家に置いてあった。

八百屋bar（週一で開かれる飲み屋）★コミュニティを形成することができる。

八百屋bar★鹿野町の雰囲気に配慮しつつ、町の住民が楽しめる場所をきちんと用意していた。

しかの宿（お試し定住施設）★外部の人が低価格で住むことのできる施設。学生は経済的に余裕がないので魅力的だと思った。学生以外にとっても利用価値が高いと思った。

しかの宿★お試し居住の町家、なるほど！と思いました。実現するには苦労されたことと思います。

## 6■鹿野のまちは今後どうなって欲しいか。そのためにはどういうまちづくりが必要か。

●非常に素晴らしいまちづくりが進められており、このまま継続して欲しい。観光地化して街が荒れてしまうことだけが心配。

●この古い町並みを維持して欲しいです。街に賑わいをというよりは落ち着いた風情のある街並みを徹底して管理してほしいです。こういった歴史的な街はなかなかあるものではないですから。今までできていた修景の努力に加え、災害・火災の対策も考えることが必要です。壊れることが一番恐ろしいことだと思うので。

●「鳥取といえば砂丘」と鳥取県外の人には言うが、鹿野町のような素敵な町があることを多くの人に知ってもらいたい。一つの観光地・居住地となるように、さらに派手に宣伝して欲しいと思う。

- 素晴らしいものはたくさんあるので、鹿野町のアピールに力をいれて観光客が増えると良いと思った。
- 非常に整備された街並みなので、もっと多くの人に知ってもらえるように PR に力を入れるべきと思った。また、一度だけではなく何度も訪れてもらえるような設備を取り入れ、リピーターを増やしていく必要がある。
- 空き家と空き地が有効活用されれば、観光地としても移住先としてもっと魅力のある街並みになると思います。ただ観光地と生活空間の保持のバランスが難しいと。
- 最初は鹿野町の特徴をもっと多くの知ってもらい、多くの人に訪れてもらいたい気持ちがありました。しかしそれはあくまで外にいる人の意見で、そこに住む人の生活の質を落とす、望まない状態(観光客が来て騒がしい、別の問題が生じるなど)にしてまでも、有名になる必要はないと思います。あくまでそこに住んでいる鹿野町の人たちが何を望むのか、そのうえで必要なこと(広報宣伝や企画内容検討)があれば助言・協力するぐらいでいいのではないかと思います。
- 当日最後の意見交換で、あまり鹿野をにぎやかにしてほしくないとの話がありましたが、私はもっと観光を強くし、観光客が多く訪れることによって発生する問題を未然に防ぐ政策を取り入れれば、鹿野がより良い町になるのではないかと思います。
- 観光客が増えることが、かえって地域にとってマイナスに成り得るという話がありましたが、地元浸透した意識が壊れない範囲での観光地化＝歴史的・文化的空間の継承と発展を期待したい。
- 観光名所というよりは移住者などを多く招き入れ、その環境が好きな人たちがコミュニティを作り、豊かに過ごせればいいのではないかと思います。
- 街並み整備が進み観光産業の可能性が出てきたが、この街の今までの成り立ちを考えると伝統文化が支える住民生活の質が何より大切であり、それを理解し評価する外来者がこの地になじみ溶け込んで、頻度高いリピーターとなったり、移住してきたりするような形がいいのではないかと。
- キャパシティの問題が出てくると思います。人が多くなりすぎると今のまちの良さがなくなるので、来街者をどう受け入れるのか。ただし観光地に軸を置くと「住居」よりも「店＝カフェなどの来街者向け」が多くなると思いますが、それでまちの雰囲気は変わるでしょう。個人的にはそれは避けて「観光客もまちで生活しているような」雰囲気が作れればと思います。

## 7 ■ 今回の企画についての感想など

- 以前鳥取にいたので、とてもなつかしいまち歩きでした。特に鹿野の街は、私がいた当時から大きく進化していて感動です。全国まちなか広場研究会の方々との交流も含めて、非常に充実したまち歩きだったと思います。コーディネートしていただいた大島さん、ありがとうございました。(K・T)
- まちづくりの計画・実行に対する大島さんによる多様な視点での説明があつて鳥取流リノベーション企画の目的や活動に関する理解がとて深くなり、鳥取中心街に関する魅力を改めて認識することが出来ました。ありがとうございました。(N・S)
- とても面白い企画でした。いろいろありがとうございました。個人的には店の中にもうちよつと入って、どんなものが売っているかも見られる時間があればありがたかったです。(H・Y)
- 鳥取に住んでいる人でも街なかのことを知る機会はなかなか無いので、良い機会となった。(I・T)
- 初めて知る場所も多々あり、もっと自ら積極的に知っていこうと意識づけられる良いきっかけになった。また機会があれば、参加したい。次回は他の地域でのまち歩きを企画してほしい。(N・Y)
- 今回の企画で鳥取について何も知らなかったのだと気づかされました。街に出て歩いてみようとも思ったことがなかったので、当然ゆつくりと街を見る機会もありませんでした。鳥取にはいろんな店や空間、歴史的な景観、建物など魅力的な物が、探せば探すほどありました。ただ知らなかっただけなのです。この企画を機に考え方が変わり、今住んでいる町はどんなものがあるのか、どんな景色なのか。そうやって物を見るようになり、鳥取のことが好きになってきました。たくさんの人がゆつくりと街を歩いてみることで住んでいるところの良さを再発見したりして、街のことが好きになっていくのだと思います。最後に、このような企画を開いて下さりありがとうございました。(I・Y)
- まち歩きというのは、自分一人で行っても気が付かない、知らないことがたくさんあることが実感できました。まちに詳しい人と歩くことで、普段目に見えぬ、気にしない点に着目できたことで、先人の考え方に触れられたこと。またこれから新しいことをするうえで何を活用していけば、よりいいものを築いていけるのかを考えられた、すごくいい機会でした。また別の機会があれば参加したいと思います。本当にありがとうございました。(N・K)
- 鳥取のまちを歩いたのは久しぶりでした。ありがとうございました。(K・N)



- 町の人々は「地元愛」にあふれており、行動力がある人が多いのだと感じた。(H・T)
- 鳥の劇場を訪問した際、工事中でしたので、また改装工事が終われば再度訪れたいと思います。(N・T)
- 1日目しか参加出来ず日帰りの鳥取まち歩きでしたが、旧市街地の魅力を効率的に味わうことができました。大島さんをはじめご案内いただき皆様、ありがとうございました。また、機会をつくり、次回は是非、ゆっくり歩いてみたいと思っています。(H・M)
- 以前から持越しの企画でしたが、好機到来、旬の鳥取中心街と鹿野を歩くことができました。全国まちなか広場研究会(各地の自治体)の方々や鳥取大学の学生さんたちと一緒に歩いて語り合ったのも楽しかったです。大島さん、成清さん、関係者の皆さんに感謝します。ありがとうございました。(O・R)
- 1年半越しの企画の実現していただき、鳥取の変化とその背景、鹿野の取組みなど、見るだけではわからないことにも理解が進みました。休日にも関わらずお付き合いただいた市の方々、タウンマネージャーの成清さん、ふるさと鹿野の長尾さん、企画していただいた大島さん、ありがとうございました。(F・M)

#### ■コーディネーターより

このたび、念願の tekuteku コーディネーターの役割を鳥取市で果たすことができ非常に嬉しく思います。2002 年頃に「歩いて発見まちの魅力」という日本建築センターの小冊子に関わった時にはすでに参加したことがありましたので、約15年は tekuteku の視点も意識しながら、様々にまちを歩いてきたことになります。今回のまち歩きは、様々な種類の「リノベーション」を意識して組み立てました。鳥取中心市街地では、道路空間を広場的に使うことによるにぎわい再生、一度駐車場になってしまった土地を定期借地制度の活用により再び住宅地化するモデル事業、リノベーションスクールでの提案が実現したブックカフェ、鳥取大火で焼け残った歴史的建造物の再生利用、旧銀行を再生したコミュニティカフェ、学生提案をきっかけに旧旅館を活用して始まったアーティスト in レジデンス拠点など。また、鹿野町では、旧街道筋の景観を守りつつ空き家を活用する取組み、旧小学校校舎や旧体育館を改装して地域の協力を得ながら国際交流を含めた演劇活動が続け、ついに耐震化工事にこぎつけた劇場などを、他の地域でも参考になりうる事例と考え、企画しました。それに対し、幸いにも、遠路お出でいただいた tekuteku メンバーの方だけでなく、前日に姫路市で開催された全国まちなか広場研究会から遠征してきていただいた各市の方、鳥取市内各地の地域づくりに取り組んでいただいている鳥取大学の研究室の方と、多様な方のご参加に恵まれ、賑やかに開催することができました。皆様をご案内したことで、私どもも、各取組みに携わる方・応援している方同士が少しずつ重なりあっている鳥取ならではの密度の強みを活かしつつ、訪鳥された方からヒントをいただき、さらに新たな取組みを生み出していきたいと感じる機会となりました。意見交換の場で、及び後日いただいた評価は、(私自身は既に退職しておりますが)鳥取市役所関係者ととも今後の糧として参ります。

そして私自身も、3年3ヶ月お世話になった鳥取市に引き続き愛着を抱きつつも、さらに色々なまちを歩き、色々な方に教わりながら、自分にできることを探していかなければならないという思いを新たにしました。ご参加ご協力いただいた皆様と、また鳥取あるいはどこかの町で一緒させていただき、議論できることを楽しみにしております(今回ご案内しきれなかった物件、現在生まれつつある案件がまだまだ多数あります)。最後になりましたが、今回の企画に全面的にご協力をいただきました、鳥取市タウンマネージャーの成清様、ふるさと鹿野の長尾様、鳥取市役所都市整備部、鹿野総合支所の皆様にも、改めて感謝申し上げます。皆様、ありがとうございました。(2016/0210 O・E)



中心街を歩いた後の意見交換(まちパル鳥取)



鳥取民藝通り「ことめや」前にて(歩き終わって)